

# かわら版 ”とちぎのまちの駅”

第34号 2005.11.15

発行人 まちの駅ネットワークとちぎ(ま・ね・とち)

吉田 恵子

## § まちの駅全国大会のご報告 §

10月29～30日、新潟県見附市で「第7回まちの駅全国大会」が開催されました。会場となったまちの駅「ネーブルみつけ」では、4人の駅長さんがお出迎え。昨年7月のオープン時に公募で選ばれた駅長さんは、「元パスガイド」の女性2名、「元ツアーコンダクター」と「歴史のことならお任せあれ」という男性2名。とっても元気で、明るくて、おもてなしの心にあふれてました。

### 【その1 実践報告「ネーブルみつけの一年」】

まちの駅オープン直後の水害、10月の地震と、相次ぐ災害に一時は救援物資とボランティアの受け入れセンターとなったまちの駅ですが、駅長さんをはじめスタッフの活躍で、市民のみなさんの「たまり場」として定着してきたそうです。

### 【その2 講座「まちの駅の設置と展開方法」】

全国475ヶ所ある「まちの駅」。  
同じ看板、同じ機能を持っていても、そのつくり方や展開の方法はさまざま。民間団体主導型として、商工会議所が中心になっている福島県会津若松市の事例、市民が一からつくるタイプとして、富山県高岡市の事例が報告されました。そして最後に、行政主導型として登場したのが、栃木県鹿沼市。まちの駅のオープンに向けて、準備を進めている市役所特定課題推進室の福田室長から、進み具合や今後の期待などのお話がありました。

### 【その3 リレー報告】

北は北海道帯広市(なんと7時間近くかけて74歳の男性が参加!)から南は福岡県甘木市まで、全国各地の駅長さん、案内人さんが活動を紹介。栃木の模様は、まねとちがPRしてまいりました。

### 【その4 パネルディスカッション「まちづくりの”へそ”とは?」】

まちの駅連絡協議会の会長である久住・見附市長、福岡県甘木市で活動中の上野さん、今年3月から新潟市でまちの駅を始めた成田さん、そして鹿沼市の阿部市長の4名がパネラーとして登壇。これからの課題として、  
まちの駅の「認知度」をどう高めていくか  
集客とどう結び付けていくか  
市町村合併で一緒になった町どうしの交流を深めるのにまちの駅が役に立つのでは  
といったことが挙げられました。

### 【その5 分科会1～4】

分科会の熱い議論の様子は、後日改めてご報告します。

**次回の全国大会は2006年2月4～5日 「そうだ 福岡県甘木へ行こう！」**